

マクロファージ活性化症候群※の治療のために

ガミファントによる 治療を受けられる 患者さんとお家族の方へ

※全身型若年性特発性関節炎または成人発症スチル病にともなうマクロファージ活性化症候群

医療機関名

マクロファージ活性化症候群とは

マクロファージ活性化症候群は、全身型若年性特発性関節炎や成人発症スチル病 などにもなる免疫システムの異常を原因とする病気です。

マクロファージ活性化症候群を理解するために、
まず健康な免疫システムがどのようにはたらくかを見てみましょう。

体内に有害な細胞があると、免疫細胞がはたらき、それらの有害な細胞を破壊します。このようなはたらきをする免疫細胞はT細胞と呼ばれます。

T細胞がはたらくためには、他の免疫細胞の助けが必要です。

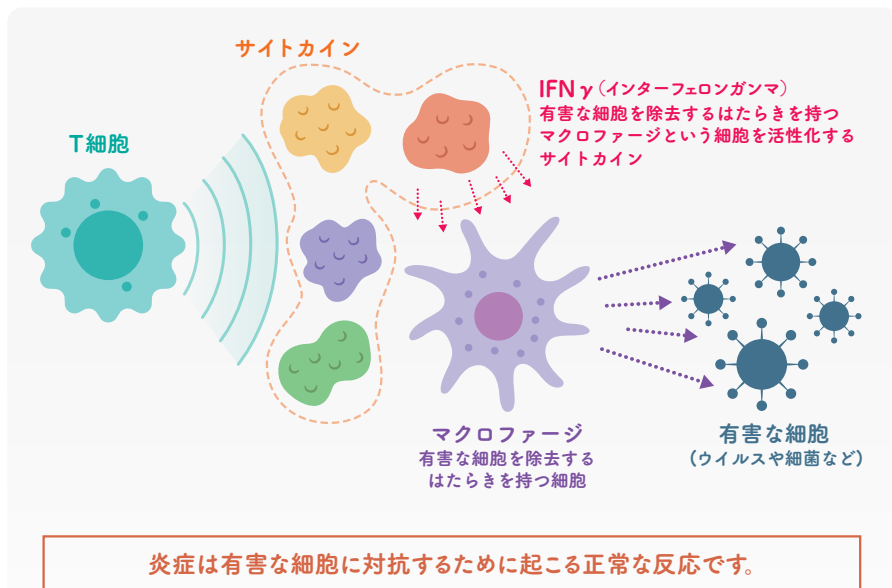
T細胞が活性化するとサイトカインという細胞間の情報伝達に使われるタンパク質が放出されます。T細胞は、有害な細胞を破壊すると鎮静化し、サイトカインの放出はおさまります。

それでは、マクロファージ活性化症候群の場合を見てみましょう。

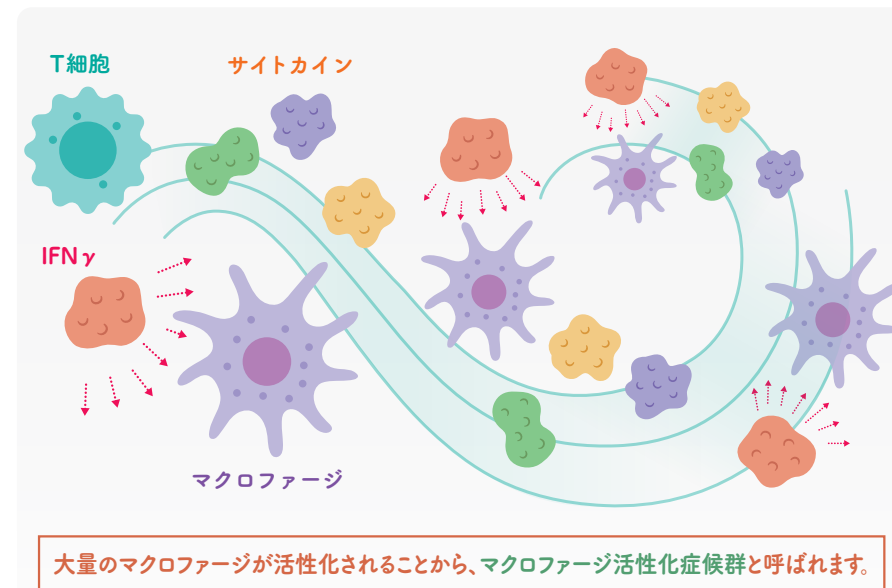
T細胞が異常に活性化すると、IFN γ などのサイトカインが必要以上に多く放出されます。

IFN γ が多すぎると、より多くのマクロファージが活性化されていきます。

サイトカインやマクロファージが多すぎると、危険なレベルの炎症が引き起こされます。



(参考)
KENNETH MURPHY, CASEY WEAVER 著. JANEWAY'S 免疫生物学 原書第9版, 南江堂, 2019. P.7, 385.



⚠️ このように強い炎症が起こると、心臓や肝臓、脾臓、腎臓などの臓器が傷つけられることがあります。

(参考)
日本リウマチ学会 編, 若年性特発性関節炎診療ガイドライン 2024-25 年版 (メディカルレビュー社) P.146-147

マクロファージ活性化症候群の症状

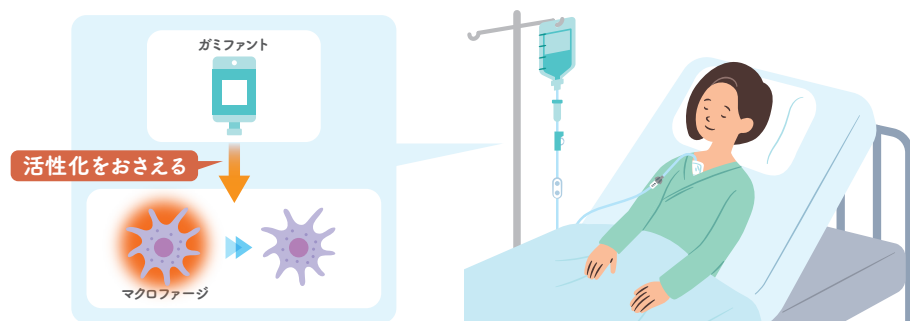
マクロファージ活性化症候群では、長く続く発熱など、さまざまな症状が起こります。進行が早く、生命にかかわることもあるため、適切な治療が必要です。

- 全身** 発熱、体のだるさ、けいれん、意識がもうろうとする、むくみ、リンパ節（首、わきの下、股の付け根など）の腫れ、気分が落ち込む、怒りっぽくなる など
- 頭部** 頭痛、めまい、意識の低下 など
- 胸部** 動悸、脈の乱れ、咳※、息切れ、息苦しさ など
※咳と一緒に出血することがあります
- 腹部** 腹痛、腹部の圧迫感や違和感、吐き気、血便・血尿、尿量の減少 など

(参考)
厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業自己免疫疾患に関する調査研究班。
成人スチル病診療ガイドライン 2017年版【2023年 Update】(診断と治療社) P.58
日本リウマチ学会 編. 若年性特発性関節炎診療ガイドライン 2024-25年版 (メディカルレビュー社) P.147-150

ガミファント® 点滴静注液 50mg

ガミファントは、マクロファージの活性化をおさえるはたらきを持つ、全身型若年性特発性関節炎または成人発症スチル病にともなうマクロファージ活性化症候群の治療薬(点滴薬)です。



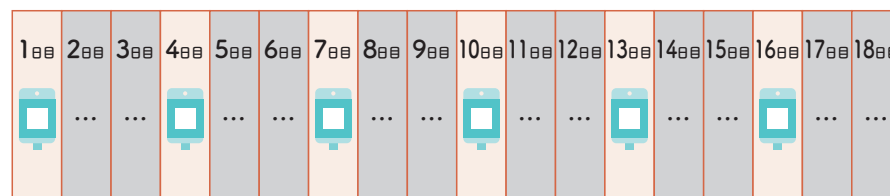
(参考)
Jacqmin P, et al. Br J Clin Pharmacol. 2022;88(5):2128-2139.
利益相反：著者に、Sobi からコンサルタントとして報酬を受け取っている者、Sobi の科学諮問委員会に参加している者、Sobi の臨床試験のレビューに無償で関与している者、Sobi の元従業員が含まれる。

ガミファントによる治療の方法

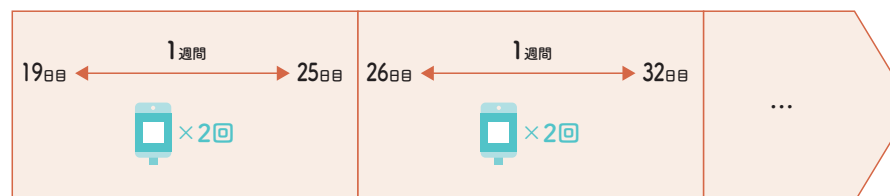
ガミファントの点滴は、初回～6回目は3日に1回、7回目以降は1週間に2回行います。

治療をどのくらい続けるかは医師が判断します。
症状が十分に改善しない場合は、点滴の頻度を1～2日に1回にしたり、1回に点滴する量を増やしたりすることがあります。

【初回～6回目】→ 3日に1回



【7回目以降】→ 1週間に2回



通常、1回の点滴にかかる時間と点滴する量は、以下のとおりです。

1回の点滴にかかる時間	1時間以上
1回に点滴する量	初回 ▶ (体重[kg]) × (2.4 ～ 24[ml]) 2回目以降 ▶ (体重[kg]) × (1.2 ～ 12[ml])

※3日間の合計投与量は 10mg/kg を上限とします。

副作用

治療により、以下の副作用があらわれる可能性があります。体の異常を感じたら、すぐに医師の診療を受けてください。

■ 感染症

結核などのマイコバクテリア感染症、带状疱疹、
播種性ヒストプラズマ症 など

【症状】発熱、体がだるい、寒気 など



■ 注射にともなう反応（急性呼吸不全など）

【症状】息が苦しい、意識の低下、吐き気、めまい、動悸 など

その他、発熱、かゆみをともなう皮膚の赤みやぶつぶつ、頭痛などが起こることがあります。

（参考）

独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 患者向け副作用用語集 ver4.00. [https://www.pmda.go.jp/files/000275257.xlsx, 2026年8月27日確認]

治療後

マクロファージ活性化症候群は、治療によって症状がおさまっても、再発する可能性があります。治療が終わったあとも、体の異常を感じたらすぐに医師の診療を受けてください。

ガミファントによる治療の注意事項

● 治療中にかぜやインフルエンザなどの感染症にかかったかもしれないと感じた時は、すぐに医師の診療を受けてください。

● 治療中～最後に点滴を受けてから一定期間が経過するまでは、生ワクチン※の接種を行うことができません。生ワクチンの接種を希望される場合は、医師にご相談ください。

※BCG（結核）、麻しん、風しん、水ぼうそう、おたふくかぜ、ロタウイルス、带状疱疹の一部、インフルエンザ（経鼻ワクチン）など

● 以下の方は、ガミファントによる治療が受けられない場合や、注意が必要な場合があります。詳しくは医師にご相談ください。

■ 過去にガミファントの成分で過敏症になったことがある方

■ 感染症にかかっている方

■ B型肝炎ウイルスキャリアの方（症状はないものの持続的に感染した状態の方）、過去にB型肝炎に感染したことがある方

■ 生ワクチンや弱毒生ワクチンを接種された方、または接種する予定がある方

■ 結核にかかっている可能性がある方、過去に結核にかかったことがある方

■ 妊娠中または妊娠の予定がある方

■ 授乳中の方

■ 生後6ヵ月未満の方

■ 高齢の方

■ 特定のお薬※による治療を受けている方

※治療域が狭いチトクロームP450（CYP）基質の薬剤 など